

中国・北欧社会福祉国際フォーラムでの自由研究発表報告 I

岩田 千亜紀
東洋大学

2020年11月14日～15日に開催された「中国・北欧社会福祉国際フォーラム」において自由研究発表を行わせていただきました。今回のフォーラムのテーマは、「新型コロナ危機における社会福祉の発展とソーシャルガバナンスシステムの構築」でした。そこで、このテーマに即して、「ポストコロナ時代の社会福祉支援におけるデジタルトランスフォーメーション-ICTを活用した社会福祉支援の方法の検討」というタイトルを設定し、研究内容を発表しました。

今回のフォーラムは、コロナウイルス感染拡大という背景の下、実施されたため、初のオンラインによる開催となりました。そのため、それぞれの分科会もオンラインで実施され、オンライン上で発表を行いました。私が発表した分科会では、韓国社会福祉学会、日本社会福祉学会、中国社会福利専門委員会から各2名が発表を行いました。分科会のテーマは、「ポストコロナ時代における社会福祉の発展」でした。発表の内容は、社会ガバナンスに関するソーシャルワークのモデル、年金についての国際比較、東アジア児童福祉制度に関する研究、日本の生活保護世帯の高校未進学・中退の子どもに関する支援の分析など、かなりバラエティに富んだものでした。通訳の確保などの言語の問題など、オンラインによる国際会議ならではの難しい課題もありましたが、中国側の司会者やコメントーターをはじめ、様々な方たちのサポートにより、発表は大変スムーズに行われました。

時間の関係上、質疑応答の時間などはなかったのですが、発表後、中国のコメントーターからは、大変貴重な講評を頂戴しました。講評では、中国も家庭内暴力と性暴力の問題について同じ問題を抱えていることや、このような研究はほとんど行われていないため、私が行った研究は、非常に興味深く、刺激になったとお話を頂きました。このように、日本以外の国の研究者から情報を共有して頂くことは、国内の学会発表だけでは難しいと思います。今回、国際的な経験を共有することのできる貴重な経験を得ることができました。このような機会を与えて頂いた日本社会福祉学会、支えて下さった関係者の皆様に、心よりの感謝を申し上げます。今後も福祉社会の発展に寄与できるよう、さらに研究を進めて参ります。